

Hell. ケース

22 才の青年がクリニックに診察に訪れた。彼の主訴は慢性の頭痛だった。彼は激しく重い頭痛を訴え、彼の頭痛は精神的な尽力によって非常に悪化することにも言及した。

その結果として、彼は物事に集中することができなかった。彼の頭痛は数年前に始まり、その間に彼は学校の試験に続けて三回失敗した。

自分は怠惰で勉強をやる気にならないと言い、彼自身の態度を

「本を見るよりは悪魔を見るほうがましだよ」という言葉で要約した。その時彼はまだ学生で、再び試験に失敗するだろうと完全に予期しており、それは彼に多くの心配・絶望を引き起こし、時折彼は自殺を考えてすらいた。

このケースの最も重要な側面は彼のインタビューの時の印象だった。

彼は鈍くて重く、かなり理解が遅いようだった。彼はめっ

たに進んで情報を提供せずに、ただ静かに座っており、その様子はほとんど愚かに見えた。彼はしばしば目をつぶり、疲れているように見えた。

より正確な答えを促されて問い詰められると、彼は見るからに悩んだ様子で、考えても何も浮かんでこず、額に皺を寄せた。彼は非常にのろく（鈍く）質問には短くそっけない答えを返すのみだった。

集中する試みはどれも直ちに捨て去られ、

彼はたびたび「分かりません」と答えるのだった。

Helleborus 50Mがこのケースを2ヶ月の間に変容させた。